



# 厚別はなぜ、 “新札幌”になったか？

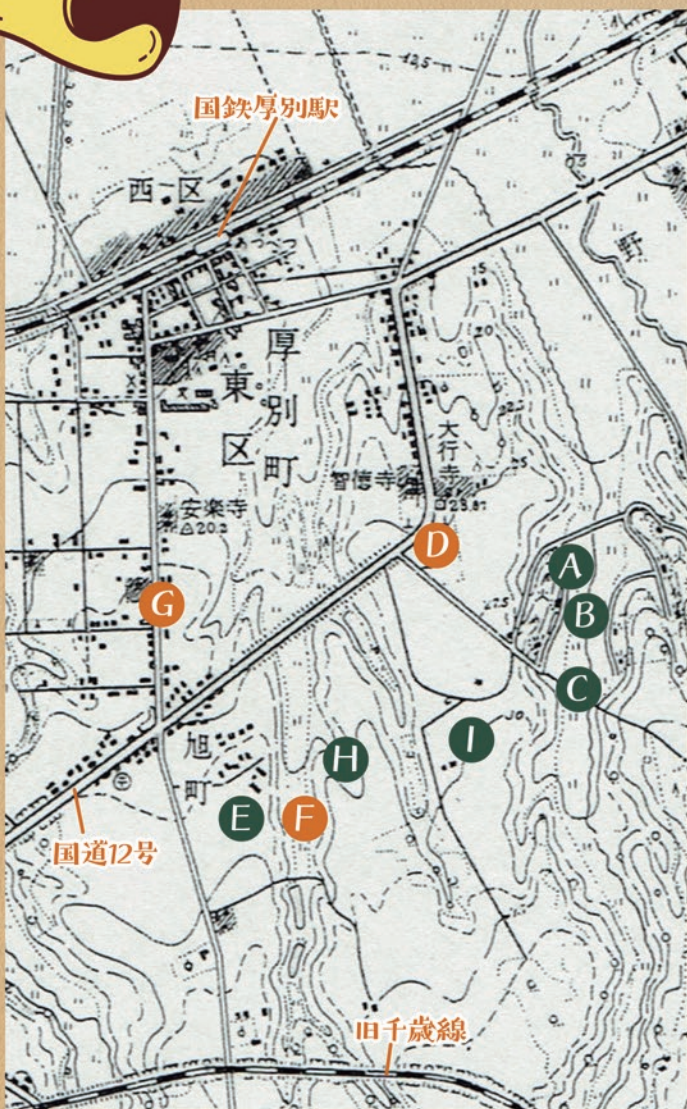


図1: 2万5千分の1地形図「札幌東部」1954(昭和29)年測量、1959(昭和34)年発行から ※A~Iは表の地図と一致します。



図2: 馬場牧場 昭和前期撮影(故馬場五三郎さん所蔵)



図3: 図2の現在の風景(厚別中央2条3丁目付近)

むかし

いま



図1は、今から60年以上前の地図です。現在のJR新札幌駅があるA地点の付近には、まだほとんど人家がありません。ここには何があったのでしょうか。また、この場所がなぜ、どのようにして“新札幌”になったのでしょうか。

現在サンピアザがあるB地点を川が流れています。このあたりはもと、沢地でした。C地点には板橋が架けられ、「板橋の沢」と呼ばれていたそうです。地盤が軟弱でぬかるんでいたため、板橋がないと人馬が通れなかったと伝えられています。【?1のこたえ】等高線からも、谷状の凹んだ地形がうかがえます。

1944(昭和19)年、日本陸軍の弾薬庫がここに設けられました。なぜ、この場所が選ばれたのでしょうか。危険な弾薬を保管するためには窪んだ土地が適していたとみられます。万一爆発しても、爆風が周辺に広がりにくからです。

現在の国道12号はD地点で北へ曲がっています。谷状の急な勾配を避けたためでしょう。【?2のこたえ】板橋の沢の西方には、なだらかな起伏の丘が広がっています。その地形を利用して、1927(昭和2)年に牧場が開かれました。E地点の馬場牧場です。図2の昭和前期の写真を、図3の現在の風景と比べてみましょう。

図2の写真には、手前に沢が写っています。現在厚別西通が通じているF地点です。乳牛の水飲み場としてちょうどよかったのかもしれない。

牧場のさらに西側に厚別の市街が連なっています。G地点の厚別停車場通です。地形的にみると、尾根筋に当たります。地盤のよいところに道を通したのでしょうか。【?3のこたえ】1950年代の後半(昭和30年代の前半)、H地点一帯に札幌市初の大規模市営住宅団

地が造成されました。ひばりが丘団地です。当時、人口が急増していた札幌市にとって、郊外の広大な牧場の土地は団地にうってつけでした。団地の中央を通る厚別西通は、もともと沢地だったので、埋め立てたので、古くからの道の厚別停車場通よりも幅を広げることができたのです。【?4のこたえ】

一方、陸軍の弾薬庫はどうなったのでしょうか。戦後、自衛隊に引き継がれましたが、移転を求める声が高まりました。周辺に住宅街がますます広がったためです。ひばりが丘団地に続き1960年代前半(昭和30年代後半)から、弾薬庫の南側にも団地が作られました。下野幌第一団地です。弾薬庫は1969(昭和44)年、日高町に移転し、その結果、一帯がすっきり空くことになりました。増え続ける住民にとって必要な商業施設を作るのに、これまたかっこうの土地となります。跡地一角のI地点には下野幌団地G棟が建てられました。

この時期、もう一つ別の動きが起きます。国鉄旧千歳線の付替えです。輸送力を増強するために、新たな線路を敷くことになりました。鉄道の新線と駅舎の場所として注目されたのが弾薬庫跡です。1973(昭和48)年、新千歳線が開通し、新札幌駅が開業しました。【?5のこたえ】1977(昭和52)年には大型商業施設としてサンピアザがオープンします。さらに1982(昭和57)年、地下鉄東西線が延伸し「新さっぽろ」駅ができました。丘陵地帯→牧場→大規模住宅団地、沢地→弾薬庫→鉄道駅と商業施設。厚別はこのようにして“新札幌”になりました。サンピアザの南側入り口が下り坂になっているのは、この場所が沢地だったことの痕跡です。【?6のこたえ】

